

最優秀賞

神奈川県共同募金会長賞

ともに生きるということ

伊勢原市立比々多小学校

六年 加藤 琉聖

2年前、相模原市で起こった津久井やまゆり園での事件の後「ともに生きる」というポストターを街中でよく見るようになりました。神奈川県では、ともに生きる社会かながわ憲章を定めているそうです。やまゆり園の事件で犯人は意思で通できない人間は生きる価値がない、と主張しているそうです。僕の弟は最重度の知的障害と自閉症があります。みなとといいます。言葉はほとんどしゃべれません。オムツがとれたのも小学3年で遅めでした。確かに障害があるのはいわゆる「ふつう」ではありません。泣いても何が原因か分からないこともあります。でも、決して意思のない人ではありません。伝える手段が難しいだけでみなとにもしたいこと、楽しいこと、悲しいことたくさんあります。

みなどと外にいる時に困っていることがいくつもあります。指しゃぶりすることや、突然大きな声を出すことです。指しゃぶりは落ちつくようです。声は嫌なことがあった時やハイテンションになった時に出てしまいます。4年生で身長も高いみなどが指しゃぶりをしていると、びっくりして見られたり、大きな声を出すとおどろかれます。声を出さないよう注意するともっとひどくなる事もあります。おどろかれてしまうのは、みなどのような障害を知らない人が多いからだと思います。知らないと怖いし、特別に見えるのです。僕にとってみなとは可愛い弟です。少しずつ我慢出来るようになってきたり、ゆっくりだけど成長しています。ともに生きる社会を作るためには、知らないから仕方がないではなく、知ろうとする努力が必要です。勉強の中で障害を取り入れたり、積極的に障害のある人との交流をしたり出来ると思います。